

食肉販売動向調査結果 （2025 年度下半期公表）

① 卸売業者 編

独立行政法人農畜産業振興機構

※ 当機構では、食肉の販売動向を把握するため、年に 2 回、主要な食肉の卸売業者および小売業者の協力を得て、食肉の取り扱いや販売見通しに関するアンケート調査を実施している。

今回、2025 年度上半期（2025 年 4 月～9 月）の実績見込み（以下「実績」という。）と 2025 年度下半期（2025 年 10 月～2026 年 3 月）の見通しなどを取りまとめたものについて公表する（2025 年 8 月時点）。

なお、本調査結果は機構の見解ではなく、調査先もすべての業者ではない。

【ポイント】

○卸売業者における 2025 年度上半期の販売状況について

牛肉全体では、「同程度」が 46.7%と最も多い中、「増加」が「減少」を上回った。品目別に見ると、和牛は「小売向け需要の増加」や「輸出需要」などから「増加」が最も多かった。また、和牛以外では、「同程度」が最も多く、交雑牛は「小売向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った一方、乳用牛は「生産量の減少」、輸入品（冷蔵・冷凍）は「相場高」などから「減少」が「増加」を上回った。豚肉全体では、85.7%が「同程度」と回答があった。品目別に見ると、すべての区分で「同程度」が最も多い中、国産豚肉は「外食向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った一方、輸入品（冷凍）は「相場高」などから「増加」の回答がゼロであった。

○卸売業者における今後 1 年間の輸入食肉の取扱見通しについて

輸入牛肉全体では、「同程度」が 7 割弱で最も多かった。国別に見ても、「同程度」が最も多い中、カナダ産は「相場安」、豪州産は「外食向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った。また、輸入豚肉全体では、「同程度」が 8 割強で最も多かった。品目別に見ると、ブラジル産は「相場安」などから「増加」が最も多かった。

○卸売業者における 2025 年度上半期の在庫量について

牛肉・豚肉（冷蔵/冷凍）全体として、おおむね計画通りかやや多い水準となったが、国産豚肉（冷凍）はやや少ない水準となった。

調査概要

- 1. 調査方法
アンケート
- 2. 調査対象者数、回収数及び回収率
右表のとおり
- 3. 調査期間
2025 年 8 月 1 日～22 日

(単位: 者)

	調査対象者数①	回収数②	回収率 (%) ③=②/①
卸売業者			
牛肉	15	15	100
豚肉	14	14	100
小売業者			
量販店	19	19	100
食肉専門店	61	61	100

注: 調査対象者は、食肉の市況(仲間相場)や小売価格について、当機構が定期的に調査を実施している主要な食肉の卸売業者および小売業者であり、すべての業者ではない。

目次

- 1. 食肉の取扱状況 1～2 頁
- 2. 仕向け先別販売割合 3～5 頁
- 3. 輸入食肉の販売見通し 6～9 頁
- 4. 在庫の状況 10～13 頁

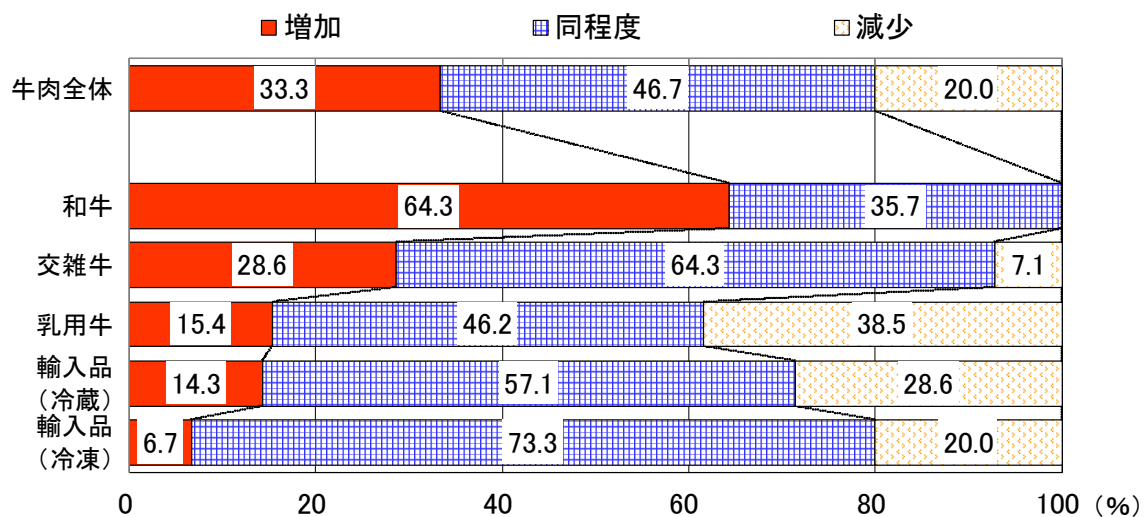
① 卸売業者 編

1.食肉の取扱状況

(1) 牛肉 ～牛肉全体は「同程度」が最多、和牛は「増加」が最多～

- 2025 年度上半期の卸売業者における牛肉の取扱状況（重量ベース）について、前期（2024 年度下半期）との比較で、**牛肉全体では「同程度」が 46.7%と最も多い中、「増加」が「減少」を 13.3 ポイント上回った。**
- 増加理由としては、「小売向け需要の増加」が最も多く、次いで「他畜種との需要シフト」などが挙げられた。
- 品目別に見ると、**和牛は「増加」が最も多かった。また、和牛以外では、「同程度」が最も多く、交雑牛は「増加」が「減少」を上回った一方、乳用牛および輸入品（冷蔵・冷凍）は「減少」が「増加」を上回った。**
- 増加理由については、和牛は「小売向け需要の増加」が最も多く、次いで「輸出需要」、交雑牛は「小売向け需要の増加」が最も多く挙げられた。
- 一方、減少理由については、乳用牛は「生産量の減少」などが挙げられ、輸入品（冷蔵・冷凍）は「相場高」が最も多く挙げられた。

2025年度上半期における牛肉の取扱状況（2024年度下半期との比較）



注1: 重量ベース。

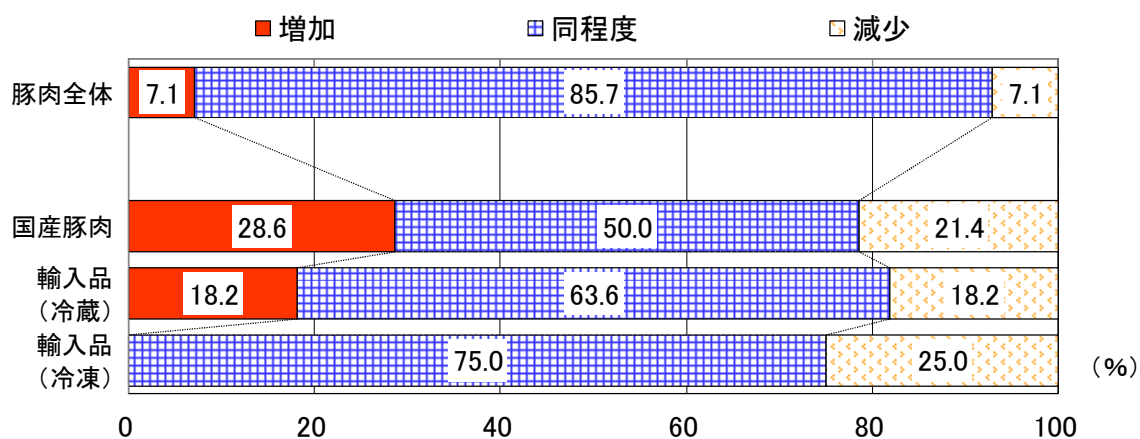
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

**（２）豚肉 ～ 豚肉全体は「同程度」が最多。すべての品目においても「同程度」が最も多く、
国産品は「増加」が「減少」を上回る～**

- 2025 年度上半期の卸売業者における豚肉の取扱状況（重量ベース）について、前期（2024 年度下半期）との比較で、**豚肉全体では「同程度」が 85.7%と最も多い中、「増加」と「減少」は同率であった。**
- 品目別に見ると、すべての区分で「同程度」が最も多い中、国産豚肉は「増加」が「減少」を上回った一方、輸入品（冷蔵）は「増加」の回答がゼロであった。**
- 国産豚肉の増加理由については、「外食向け需要の増加」が最も多く挙げられた。
- 輸入品（冷蔵）の減少理由については、「相場高」が多く挙げられた。

2025年度上半期における豚肉の取扱状況(2024年度下半期との比較)



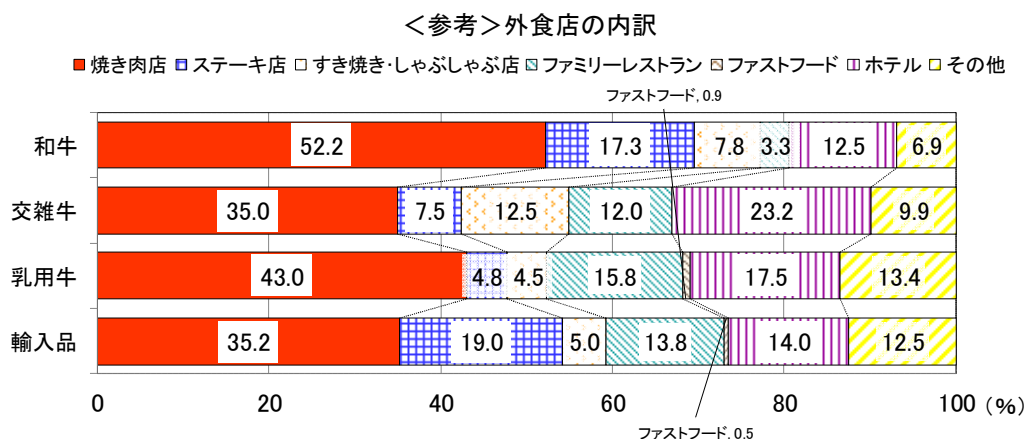
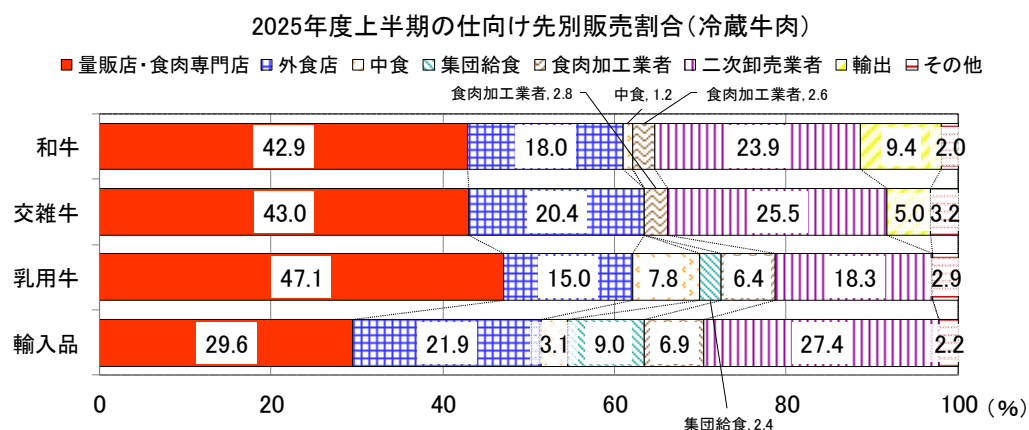
注1: 重量ベース。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2.仕向け先別販売割合

（１）牛肉（冷蔵） ～すべての区分で「量販店・食肉専門店」向けが最多～

- 2025 年度上半期の卸売業者における冷蔵牛肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、**すべての区分で「量販店・食肉専門店」が最も多かった**。前期（2024 年度下半期）と比べると、和牛で「食肉加工業者」が 5.7 ポイント、「二次卸売業者」が 5.4 ポイント低下した一方、「量販店・食肉専門店」が 0.8 ポイント、「外食店」が 2.4 ポイント、「輸出」が **7.5 ポイント上昇した**。
- 「外食店」の内訳を見ると、**すべての区分で「焼き肉店」が最も多かった**。次位は、和牛および輸入品で「ステーキ店」、交雑牛および乳用牛で「ホテル」であった。
- 「食肉加工業者」の用途は、主に「ハンバーグ」、「ハム・ソーセージ」、「レトルト食品」などとなっている。また、その他の用途として、「ローストビーフ」などが挙げられた。
- なお、冷蔵品の取扱割合は、和牛が 77.1%（前期から 0.8 ポイント低下）、交雑牛が 82.2%（同 0.5 ポイント低下）、乳用牛が 61.7%（同 8.8 ポイント上昇）であった。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

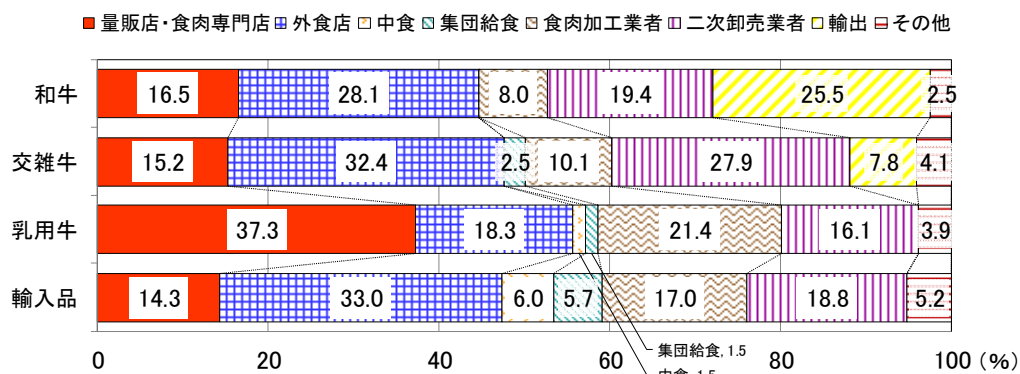
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

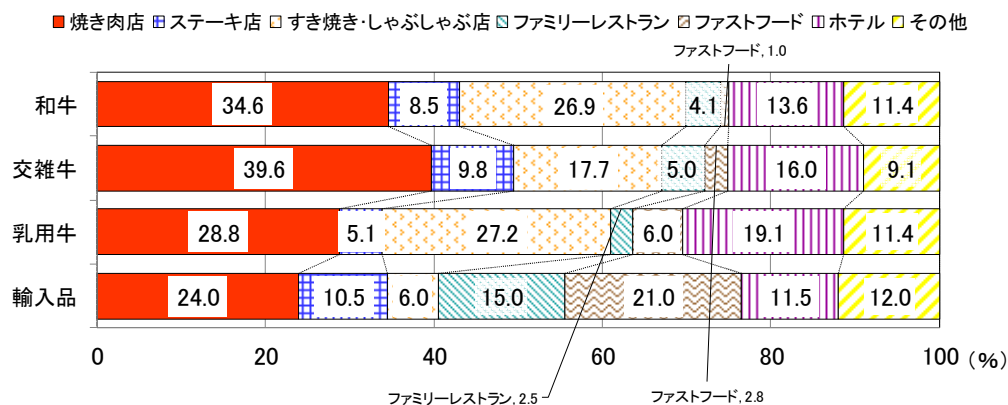
（２）牛肉（冷凍） ～乳用牛を除き「外食店」向けが最多～

- 2025 年度上半期の卸売業者における冷凍牛肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、和牛、交雑牛、輸入品で「外食店」、乳用牛で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。前期（2024 年度下半期）と同傾向となった。
- 「外食店」の内訳は、すべての区分で「焼き肉店」が最も多かった。和牛、交雑牛、乳用牛の次位は「すき焼き・しゃぶしゃぶ店」で、いずれもこの 2 つで過半数を超えている。一方、輸入品の次位は「ファストフード」で、上位 2 つで 4 割台となっており、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「食肉加工業者」の用途は、交雑牛を除いて「ハンバーグ」が最も多く（和牛はレトルト食品と同率）、冷蔵と同様に「ローストビーフ」などが挙げられた。交雑牛は「ハム・ソーセージ」や「ローストビーフ」などが挙げられた。
- なお、冷凍品の取扱割合は、和牛が 22.9%（前期から 0.8 ポイント上昇）、交雑牛が 17.8%（同 0.5 ポイント上昇）、乳用牛が 38.3%（同 8.8 ポイント低下）であった。

2025年度上半期の仕向け先別販売割合（冷凍牛肉）



<参考>外食店の内訳



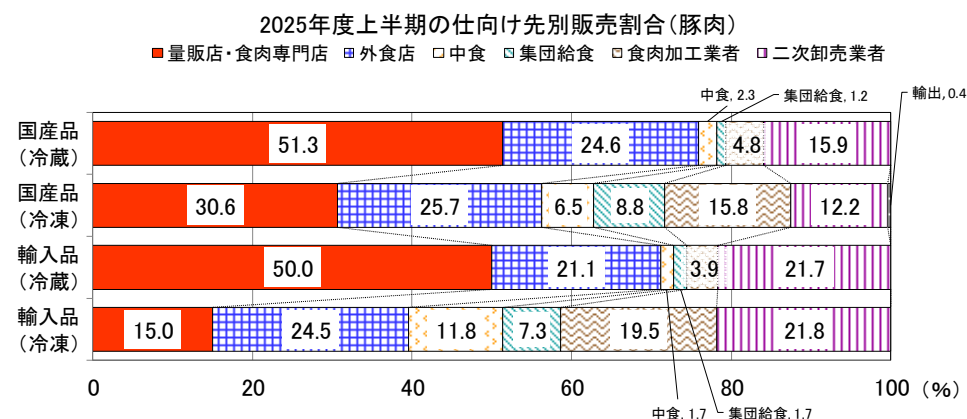
注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

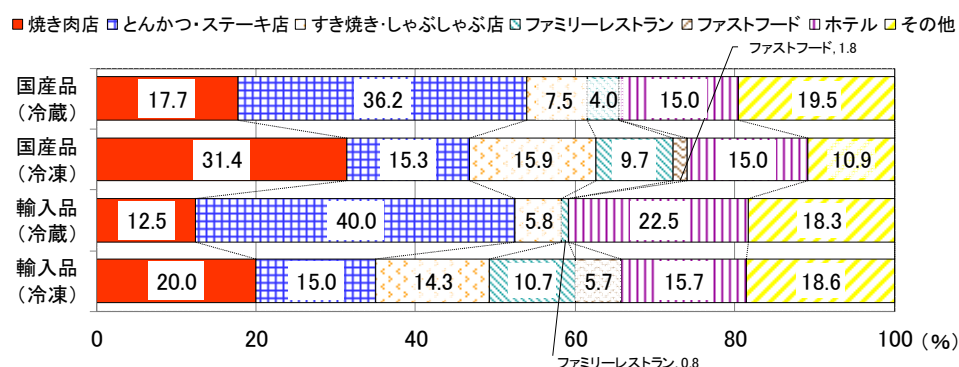
① 卸売業者 編

（３）豚肉 ～輸入品（冷凍）を除き、「量販店・食肉専門店」向けが最多～

- 2025 年度上半期の卸売業者における豚肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、輸入品（冷凍）を除いたすべての区分で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。
- 輸入品（冷凍）については、「外食店」が 24.5%と最も多く、「二次卸売業者」、「食肉加工業者」と続いており、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「外食店」の内訳を見ると、国産品（冷蔵）および輸入品（冷蔵）は「とんかつ・ステーキ店」、国産品（冷凍）および輸入品（冷凍）は「焼き肉店」が最も多かった。輸入品（冷凍）は「焼き肉店」が 20.0%と最も多かったものの、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「食肉加工業者」の用途は、国産品（冷蔵）および輸入品（冷蔵）は「ハム・ソーセージ」、国産品（冷凍）は「ハンバーグ」、輸入品（冷蔵）は「ハンバーグ」、「レトルト食品」がそれぞれ最も多かった。また、上記以外の用途として、「タレ漬け商品」などが挙げられた。
- なお、国産品における冷蔵と冷凍の構成比は、冷蔵が 72.0%（前期から 3.1 ポイント低下）、冷凍が 28.0%（同 3.1 ポイント上昇）となった。



<参考>外食店の内訳



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

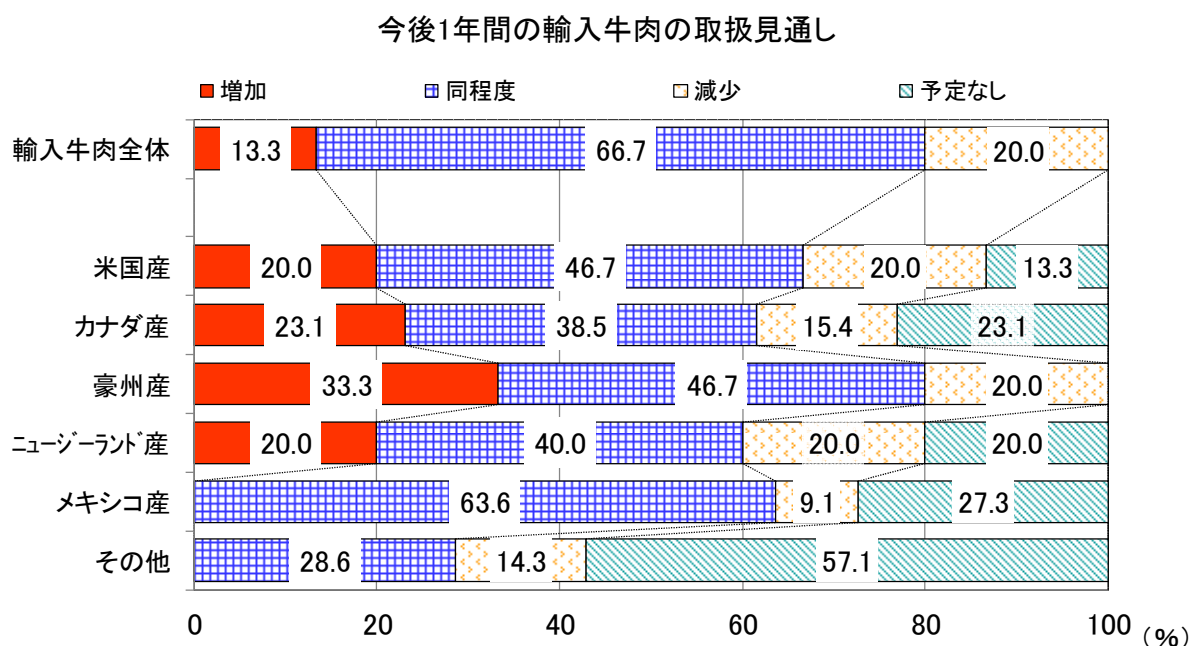
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

3. 輸入食肉の販売見通し

(1) 牛肉 ①取扱見通し ～輸入牛肉全体では「同程度」が最多～

- 今後1年間の卸売業者における輸入牛肉の取扱見通し（重量ベース）については、**輸入牛肉全体では「同程度」が66.7%で最も多い中、「減少」が20.0%、「増加」が13.3%であった。**
- 国別に見ると、「同程度」が最も多い中、**カナダ産および豪州産は「増加」が「減少」を上回った一方、メキシコ産は「減少」が「増加」を上回った。**なお、**米国産およびニュージーランド産は「増加」と「減少」が同率であり、メキシコ産およびその他では「増加」の回答がゼロであった。**（それぞれ「予定なし」を除く）。
- 「増加」の理由としては、米国産、カナダ産、ニュージーランド産は「相場安」、豪州産は「外食向け需要の増加」が最も多かった。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

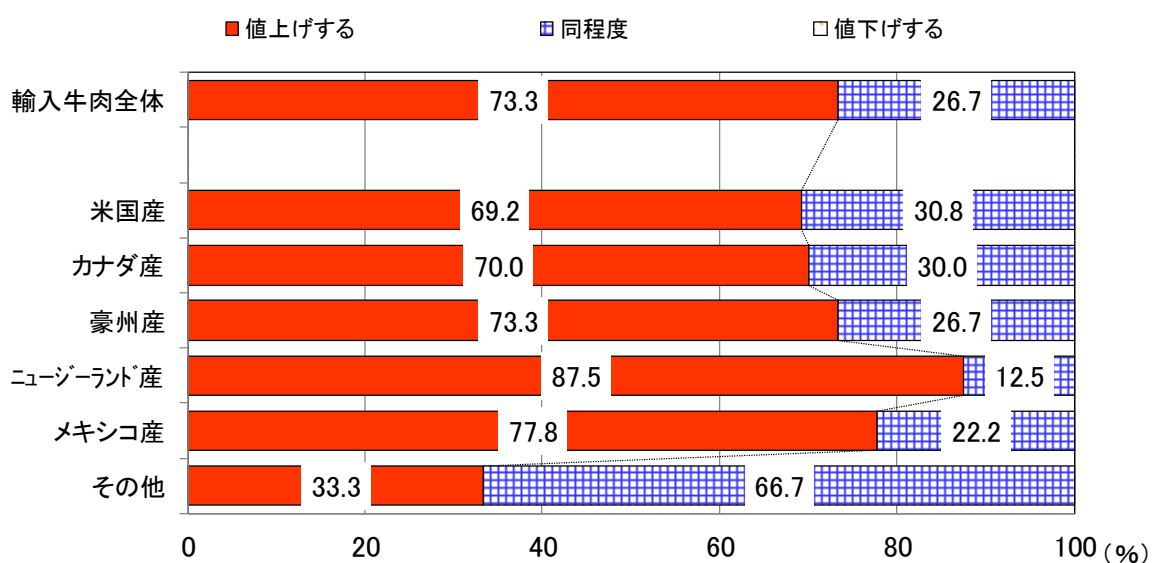
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（１）牛肉 ②販売価格見通し ～全体では 7 割強が「値上げ」、国別でも「値上げ」が最多～

- 今後 1 年間の卸売業者における輸入牛肉の販売価格見通しについては、輸入牛肉全体では「値上げする」が 73.3%と最も多く、前期から 1.9 ポイント上昇した。
- 国別に見ると、その他およびニュージーランド産を除いて「値上げする」がおおむね 7 割強、ニュージーランド産は 9 割弱を占めた。
- 値上げの理由としては、すべての区分において「相場高」などが挙げられた。

今後1年間の輸入牛肉の販売価格見通し



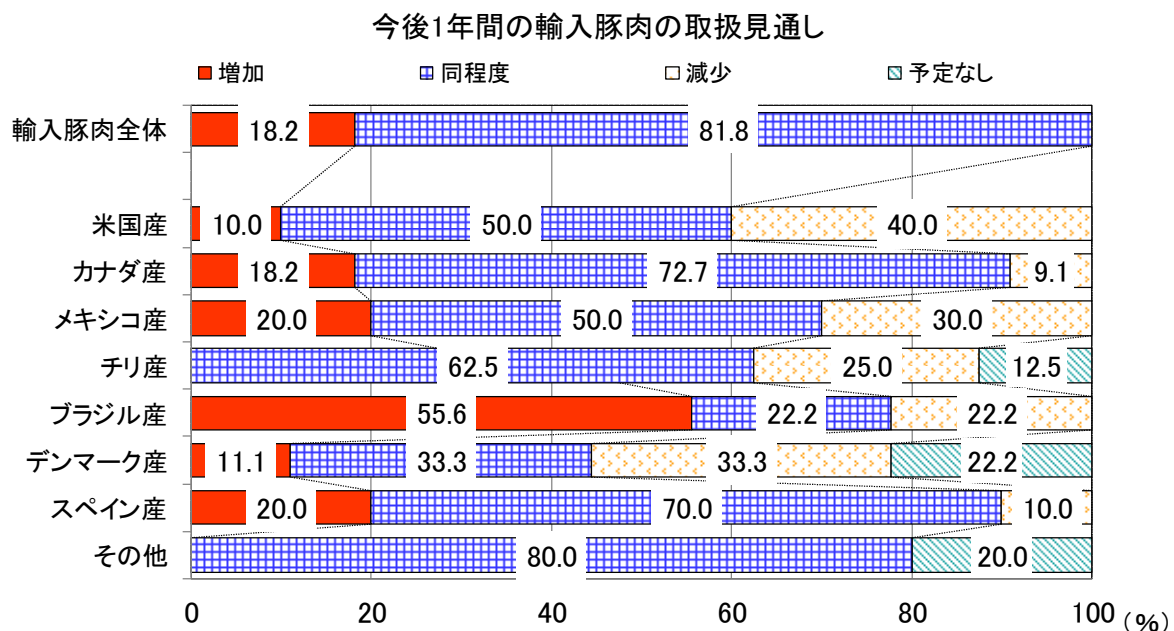
注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（２）豚肉 ①取扱見通し ～輸入豚肉全体では「同程度」の見通しが 8 割強～

- 今後 1 年間の卸売業者における輸入豚肉の取扱見通し（重量ベース）については、**輸入豚肉全体では「同程度」が 81.8%で最も多い中、「増加」が 18.2%、「減少」の回答はゼロであった。**
- 国別に見ると、ブラジル産を除いたすべての国で「同程度」が多い中（デンマーク産は「減少」と同率）、カナダ産、ブラジル産、スペイン産は「増加」が「減少」を上回った一方、米国産、メキシコ産、チリ産、デンマーク産は「減少」が「増加」を上回った。なお、**ブラジル産は「増加」が最も多かった。**また、**チリ産およびその他では「増加」の回答がゼロであった。**（それぞれ「予定なし」を除く）
- 輸入豚肉全体の「増加」の理由としては、「外食向け需要の増加」、「業務用需要の増加」、「相場安」、ブラジル産は、「相場安」が多く挙げられた。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

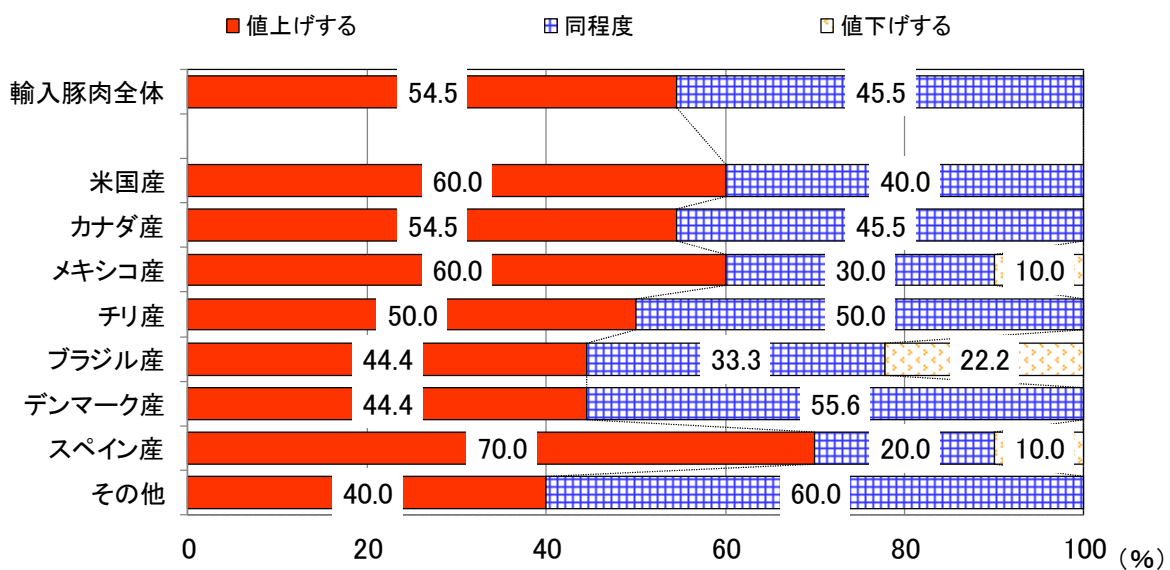
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（２）豚肉 ②販売価格見通し ～輸入豚肉全体では「値上げする」が５割強～

- 今後１年間の卸売業者における輸入豚肉の販売価格見通しについては、**輸入豚肉全体では「値上げする」が 54.5%で最も多かった。**
- 国別で見ても、**デンマーク産およびその他を除いたすべての国で「値上げする」が最も多かった。スペイン産は「値上げする」が 7 割を占めた。**チリ産は「値上げする」と「同程度」が同率であった。
- 値上げの理由としては、「相場高」が最も多く挙げられた。

今後1年間の輸入豚肉の販売価格見通し



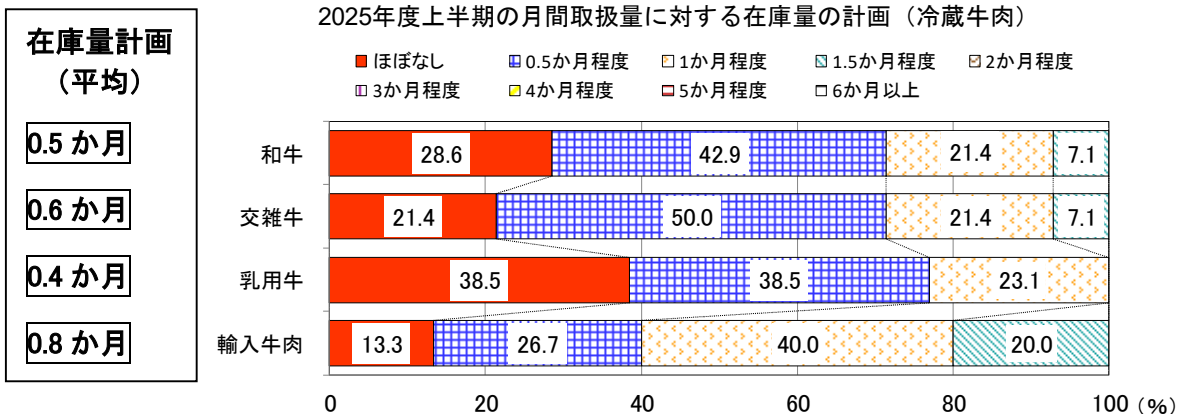
注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

4. 在庫の状況

（１）牛肉（冷蔵） ～在庫水準は計画と比べて同程度からやや多い水準～

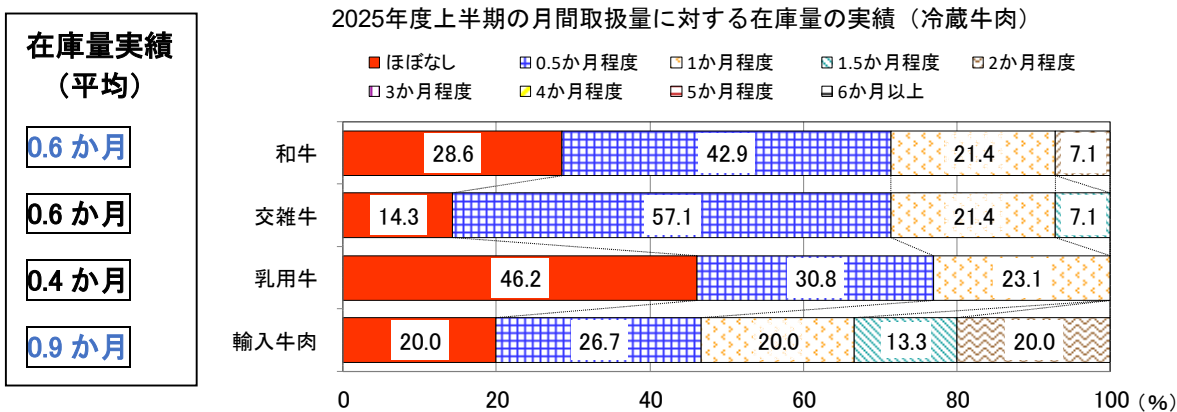
- 在庫量の実績は、計画と比べて和牛および輸入牛肉で多い傾向が見られる。
- 計画と比べて在庫が増加した要因については、和牛および輸入牛肉で「**外食向け需要の減少**」が最も多く挙げられた。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



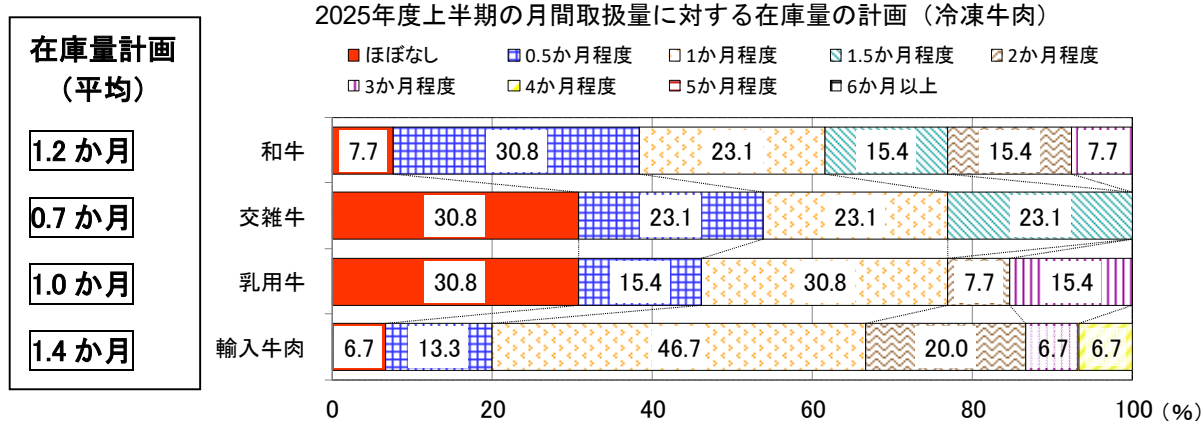
注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

（２）牛肉（冷凍） ～在庫水準は計画と比べて同程度からやや多い水準～

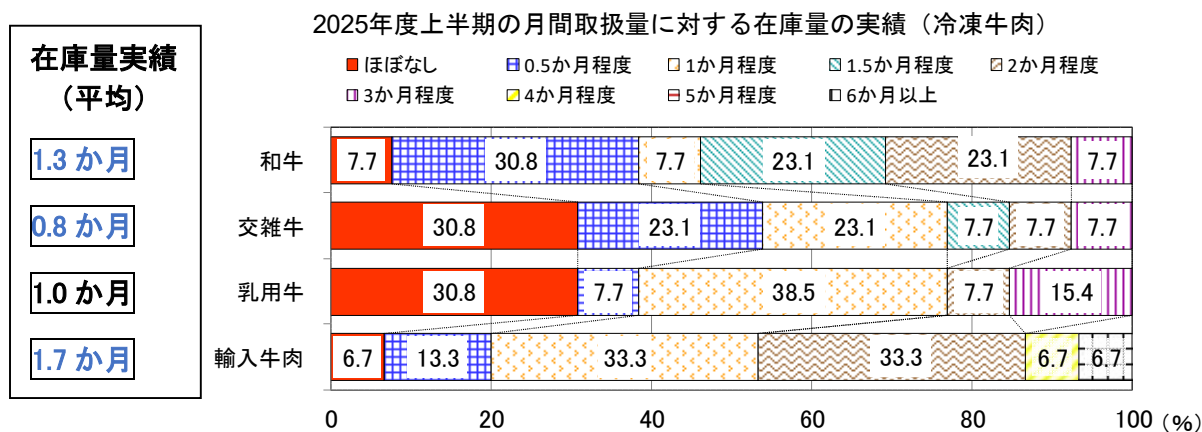
- 在庫量の実績は、計画と比べて和牛、交雑牛、輸入牛肉で多い傾向が見られる。
- 計画に比べて在庫が増加した要因については、**和牛は「小売向け需要の減少」、「外食向け需要の減少」が最も多かった。交雑牛は「小売向け需要の減少」、輸入牛肉は「外食向け需要の減少」および「相場高」が最も多く挙げられた。**



注1：データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2：左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



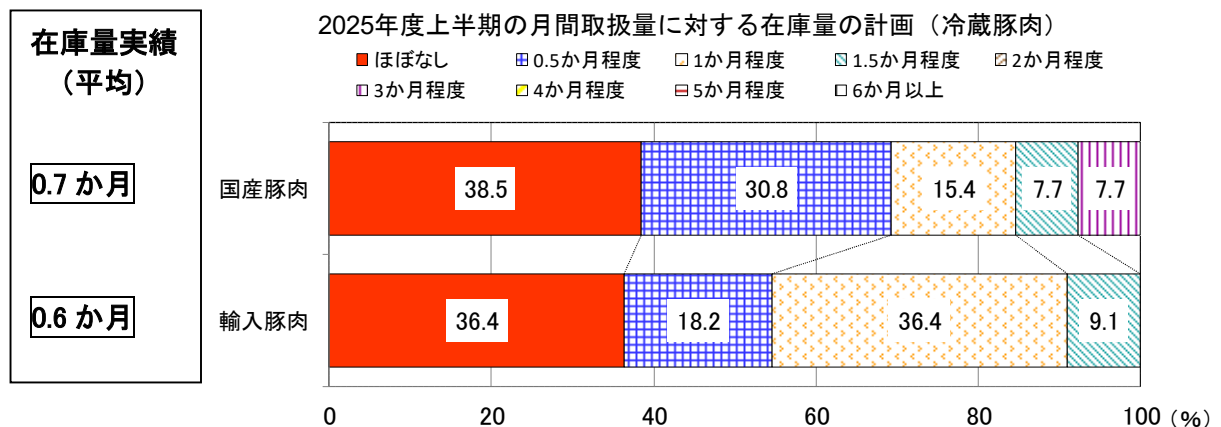
注1：データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2：左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

（３）豚肉（冷蔵） ～在庫水準は計画とおおむね同程度～

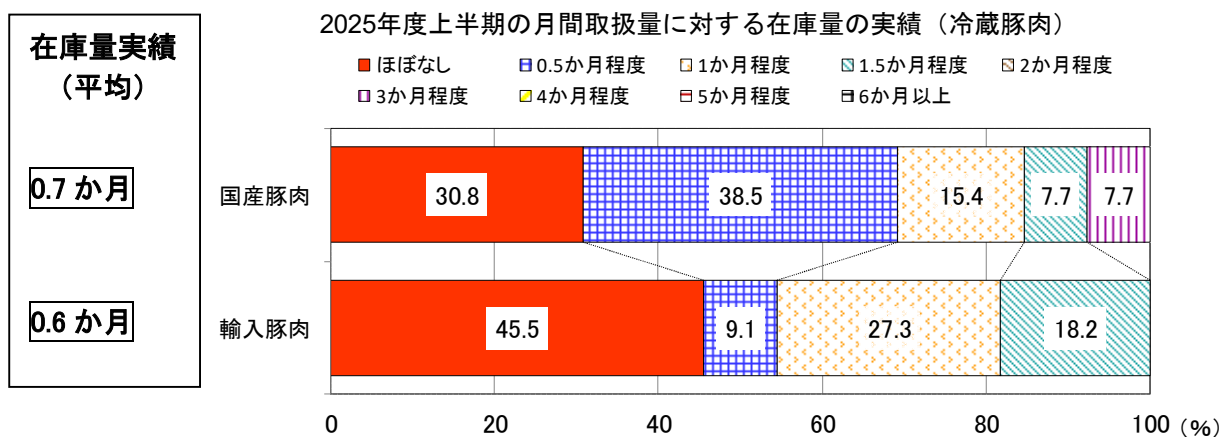
○在庫量の実績は、国産・輸入豚肉ともに、計画と比べて増減があったものの、**全体としてはおおむね同程度であった。**



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

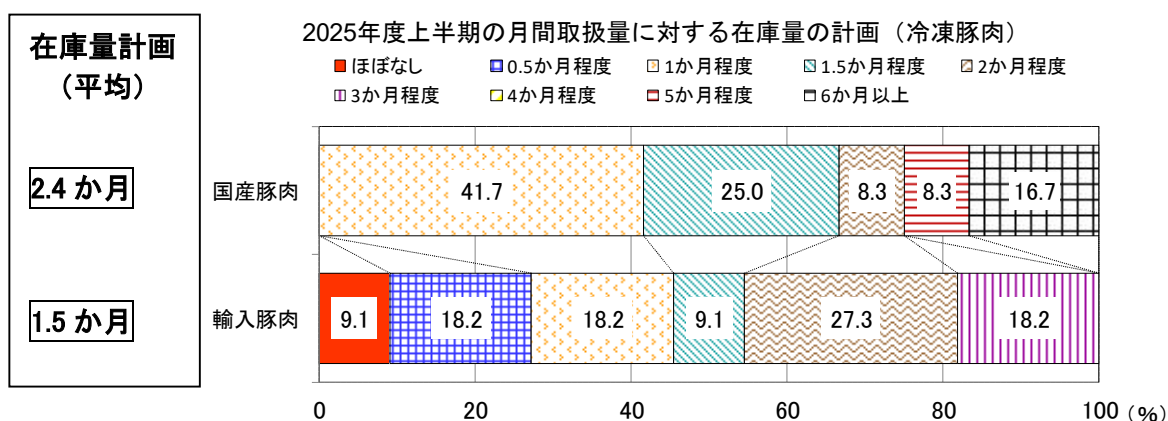
注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（４）豚肉（冷凍） ～在庫水準は計画と比べて国産豚肉はやや少ないが輸入豚肉は多い～

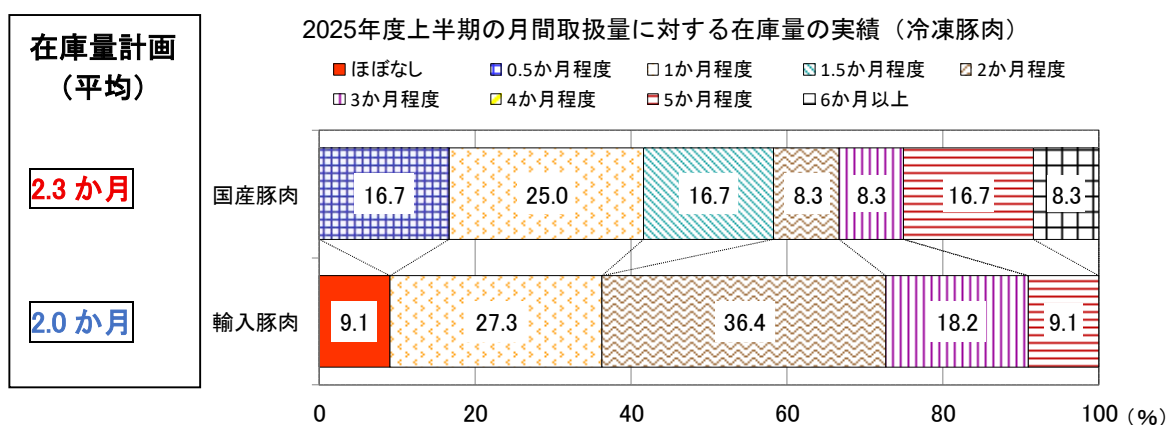
- 在庫量の実績は、計画と比べて国産豚肉で少ない傾向の一方、輸入豚肉で多い傾向が見られる。
- 国産豚肉が計画に比べて在庫が減少した要因については、「小売向け需要の増加」や「相場高」などが挙げられた。
- 輸入豚肉が計画に比べて在庫が増加した要因については、「外食向け需要の減少」が最も多く、次いで「小売向け需要の減少」や「輸入量の増加」などが挙げられた。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



注1: データは、各者の重量ベースでの取扱割合の合計値を基に算出した割合であって、各者の取扱重量の加重平均ではない。

注2: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。